

ハザードマップを確認しよう

日本は地震、台風、豪雨など、自然災害のリスクが高い国といわれています。災害は突然やってきます。災害から身を守るためには、身の回りでどんな災害が起こる危険があるのか、災害が起きた場合、どこへどのように避難すればよいのか、事前に知っておくことがとても重要になります。あらかじめできる効果的な備えの一つがハザードマップの確認です。

ハザードマップとは？

ハザードマップとは、災害が発生したときに被害が想定されるエリアや避難場所などを地図にまとめたものです。主に市区町村が作成し、洪水・土砂災害・津波などの危険度を色分けして表示しています。災害時に「どこが危険で、どこが安全か」を知らないと、避難が遅れたり、危険な場所に向かってしまう可能性があります。

確認すべきポイントは？

1. 危険区域を把握する

ハザードマップには、災害の危険度が色分けされて表示されています。自宅や職場がどのような危険区域にあるかを知ることによって、災害に対する備えができ、災害時に迅速に避難するための行動を事前に計画できます。



2. 避難場所と経路を確認する

災害時に最も重要なのは「どこに避難するか」「どうやって避難するか」です。ハザードマップには避難所の位置や安全な経路が示されており、前もって確認しておくことで、混乱を防ぎ、迅速な避難が可能になります。橋や坂道など危険箇所もチェックし、安全なルートをあらかじめ決めておくことが大切です。最寄りの避難所までの距離や所要時間を確認しましょう。

命を守る行動につながる

災害発生時に慌てて行動すると、デマや誤った情報に惑わされたり、パニック状態になって危険な場所に向かってしまうことがあります。ハザードマップを確認しておけば、危険箇所を避け、安全なルートを選択することができます。また、防災アプリや自治体の情報発信手段を確認し、災害時に最新情報を得られるように準備しておきましょう。これらは自分だけでなく、家族や周囲の人の命を守ることにもつながります。

災害から命を守るためには、身のまわりの災害リスクと避難ルートを事前に確認し、備えることが重要です。家族や大切な人と一緒にハザードマップを確認し、日頃から災害時の行動について話し合うことも、いざというときの備えとして有効です。

出典：国土交通省「ハザードマップポータルサイト」

出典：東京都防災ホームページ「ハザードマップを確認する」